

令和4年度 学校運営協議会（第3回）議事録

- 1 日 時 令和5年2月17日（金） 14:15～15:30
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：地域住民、学識経験者等4名
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席、教務部主任、生徒指導主事、

4 内 容

(1) 委員長挨拶

- ・国の方針で、マスクの着用が生徒個々の判断に任されることになるので、特に中学生レベルでは指導面で難しい局面を迎えると考えます。

(2) 校長挨拶

- ・府立学校全体の取組みとして、働き方改革に取り組んでいる。
- ・本校では、電話での対応を朝の8時から夕方5時までとし、それ以外の時間は自動音声に切り替えている。また、今年度の途中から、欠席連絡は基本的に保護者のスマートフォン等から学校のパソコンにオンライン連絡をしてもらっている。
- ・部活動改革として、来年度以降、ノー部活デイの確実な実施、部活動指導員の活用等を進めていく。部員数の減少に伴い、教員の負担軽減のため、来年度以降、近隣の府立高校2校がペアになって、段階的に合同で部活動を行っていく。本校のペアリング校は農芸高校。第一段階として、来年度は、土日曜日の部活動を合同で行う。
- ・来年度、最後の入学者選抜の志願者数は、最新の進路希望調査では、昨年度よりも増えている。この最後の入学生をしっかりと育て、成長させて社会に送り出すことに力を注いでいく。

(3) 第2回議事内容確認

(4) 議 事

◆「令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）」について

- ・今年度は、学校教育自己診断のアンケートにおいて、生徒からの学校に対する評価は概ね上がっている。逆に、保護者からの評価では下がっている項目が非常に多い。そうなった理由を分析・検証して、来年度以降の取組みに活かしていく。ホームページやマチコミメール等を含めた学校と保護者の間の連絡、意思疎通の面で課題があったと考えられる。保護者の意見を聞く取組みも必要になってくるかもしれない。

- ・図書館の利用（貸出冊数、利用者数）、地域との交流については、生徒数、部活動部員数の減少が影響している。
- ・生徒支援、他校種との交流については、西浦支援学校と以前から教員の交流を行っていたが、今年度は生徒間の交流を行うことができた。本校生徒が西浦支援学校を訪れて、美術作品を共同で制作した。でき上がった作品は近隣の施設に展示してもらえよう話を進めている。

⇒協議会委員が「令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）」を承認

◆「令和5年度学校経営計画及び学校評価（案）」について

- ・本校の学校経営計画は、昨年度大幅に変更した。中期目標は3年を単位に見ることになっているが、来年度がその3年目に当たる。「進路を切り拓く力の育成」、「確かな学力の育成」、「生徒支援体制の強化」、「安心して通学できる魅力ある学校づくり」を主眼として中期目標に取り組んできた。
- ・今年度の学校経営計画と変わった部分は、閉校が決まり入学生を迎えることがなくなるため、中学校訪問、学校説明会等の広報活動についての項目を削除したこと。それ以外の部分は変えていない。

⇒協議会委員が「令和5年度学校経営計画及び学校評価（案）」を承認

◆令和4年度 学校教育自己診断の考察と自由記述に対する回答について

- ・校長の話にもあった通り、今年度は、生徒の肯定的な回答の割合が大幅に上がり、その一方で、保護者からの肯定的な回答の割合が下がっている。
- ・その理由の分析は難しい。前回の協議会で子どもと保護者が家でどれぐらい話ができているのかの確認が必要ではないかとのご意見をいただいたので、次年度に向けて検討していきたい。
- ・生徒と教員については、Google Formでの回答を今年度初めて実施した。その結果、教員の回答率が下がってしまった。呼びかけ方、回収の方法を考えるなどして、来年度は改善したい。
- ・自由記述については、生徒の回答が少なかった。回答方法を端末への入力にした影響があるのかもしれない。保護者からは厳しいご意見もいただいているが、ていねいに対応していきたい。
- ・自由記述への回答は、本日協議会委員に見てもらった後、ホームページへも掲載する。
- ・部活動が活発かについての項目が、生徒、保護者共に肯定的な回答の割合が下がっている。生徒数の減少に伴う部活動の縮小により、活発に活動できている部が少ないという現状があるので、今後、近隣校との合同部活動も進めていきたい。

□協議会委員からの意見・質問

- ・前回も言わせていただいたが、保護者と生徒で話ができているのかが気になる。1年生保護者のマチコミメール登録者数が下がっている。
⇒1年生保護者のマチコミメールへの登録が少ないことについては、コロナによる休校等の連絡の必要がなくなり、合格者説明会で登録を呼びかけただけになってしまったことが影響しているかもしれない。次年度、保護者にもっと学校の活動を知ってもらえよう、マチコミメールやGoogle C]assroom、学校ホームページの活用を拡充していきたい。

◆令和4年度 授業アンケートの結果の分析について

- ・第1回と第2回の平均値を前年度と比較すると、全学年では9項目中6項目で上昇し、3項目が前年度と同じ数値となっている。

- ・数値が特に高いのが、「授業に対する生徒の取組」の項目であり、生徒は自分自身の授業へ取り組む姿勢について肯定的に評価している。
- ・相対的に数値が低いのは、「授業に関する生徒の意識」の項目であり、生徒に興味・関心を持たせ、知識や技能が身に付いたという達成感を感じさせるための授業の改善をさらに続ける必要がある。この2つの項目は、前年度からの伸びが一番大きい項目でもあるので、改善は進んでいる。
- ・教材活用に関する項目は、令和元年度から年々伸びており、プロジェクターや1人1台端末を活用した授業の実践が生徒に評価されていることが伺える。
- ・第1回と第2回を比較すると、平均3.5前後の高水準を維持しているものの、すべての項目において、第1回よりも第2回の方が数値が下がっている。慣れから新鮮な気持ちが失われ、授業への取組みが甘くなり、また授業内容が難しくなるにつれて興味・関心を失い、達成感を感じにくくなっていることが伺える。特に1年生において数値の低下が大きい。最初は小中学校の復習から入っていた授業が高校の内容に入っていくにつれ、難しさを感じて意欲が低下する傾向にあることが伺える。
- ・各教科・科目において、授業アンケートの結果を受けての振り返りを行った結果、改善点として以下の方策が挙げられている。
 - ①授業のレベルを下げることなく、机間指導や補習を通じて、成績下位層のフォローを丁寧に行う。
 - ②スライドや写真、動画など、生徒の視覚に訴える教材をより多く取り入れ、わかりやすい授業を行う。
 - ③実験、実習、調べ学習、発表など、生徒が主体的に取り組む課題をより多く設ける。
 - ④生徒が興味・関心を持てるよう、授業の内容が実生活と結びつくような工夫を行う。

□協議会委員からの意見・質問

- ・中学校では、少人数授業のため2学年で2名の加配がついているが、高校での少人数授業はどういう形で行っているのか。

⇒少人数加配以外にも様々加配があり、少人数授業に効果的に使えている。今年度新たに1年生の国語でも少人数授業を始めた。1年生では国語、数学、英語、2年生では数学、3年生では国語と英語で少人数授業を行っている。科目の特性により、習熟度別に分けたり、分けずに2名の教員がチームティーチングを行うなどしている。
- ・この授業アンケートの結果の数値は非常に高いので、授業改善を求めるあまり教員が疲弊しないようにしてほしい。

◆学校保健委員会資料について

- ・学校保健委員会は、今年度書面開催で実施。
- ・眼科検診、耳鼻咽喉科検診を今年度から実施。眼科検診の対象者は1年生の抽出者と3年生全員。耳鼻咽喉科検診の対象者は1年生全員。
- ・7月に、2回に分けて職員希望者が新しくできた堺市総合防災センターを見学した。
- ・11月火災訓練時に、全国瞬時警報システム（Jアラート）についての動画視聴等を実施。
- ・教育相談については、スクールカウンセラーは13回、スクールソーシャルワーカーは14回来校していただき、相談を行った。
- ・10月5日に学校薬剤師と生徒保健委員会で、環境衛生検査の体験を実施。

- ・保健室の来室状況については、2年生の来室が多い。また、1年生の来室が9月から急増している。内科・外科の来室割合は、7：3で内科的来室が多い。2限休憩時間の来室が多い。外科の場合別では、体育の授業中のけがが多い。

□協議会委員からの意見・質問

- ・教育相談において、スクールカウンセラーが13回、スクールソーシャルワーカーが14回来校して相談しているということだが、内容はこういったものか。
⇒スクールカウンセラーについては、生徒から出てくる悩みが多い。友だち関係のトラブルから学校に来にくくなっている生徒や、普段もやややと感じていることを吐き出しにくる生徒などがいる。スクールソーシャルワーカーは、家庭の問題について相談にのってもらえる機会が多い。家庭の経済状況や自立支援、福祉資源について専門的な知識を持っているので、生徒の状況について教員から相談をしたり、保護者と面談をしたり、いっしょに家庭訪問に行ってもらったりしている。教員の知識が乏しい、外部機関との連携や行政からの支援について教えていただくことが多く、非常に助かっている。

◆第3学年 進路状況について

- ・学校紹介就職の一次合格率は91.5%。近隣の学校と比べてもかなり高い数値。
- ・今年度から公開求人の複数応募が開始したが、本校は対象生徒が0名であった。他の学校に聞いても、旧7学区内では0名であった。府全体でも1桁の人数であった。企業側も学校側も複数応募を警戒している。
- ・本校は専門学校を受験する生徒が非常に多い。今年度はAOの内定まで時間がかかる生徒が多かった。生徒と保護者が家で進路について話をする機会が減っているのかもしれない。
- ・本日、1名が関西大学に合格したことが判明。

□協議会委員からの意見・質問

- ・公開求人の複数応募について、学校現場としてはどう考えているのか。
⇒面接、履歴書の指導を2社分しないといけなくなるが、なかなか時間がとれない。制度の説明はしており、生徒から希望があれば対応する。企業側も、複数応募可で求人を出してきているのは3～4割。本校は応募前職場見学を3社行かせているので、複数の選択肢から選ぶ形になっている。

◆令和4年度生活指導上の統計について

- ・生徒1人当たりの欠席・遅刻状況は、やや上昇している。
- ・今年度から進級・卒業規定が変わり、3年生の欠席・遅刻数が去年よりも増加。
- ・来年度から新型コロナウイルス感染症が5類となり、出席停止についての扱いが変わるので、学校へしっかり通うことをどう意識付けするかが課題となってくる。
- ・携帯電話指導については、繰り返し指導される生徒が多かった。
- ・懲戒指導件数・人数は昨年よりも増加。規範意識を高める必要がある。
- ・教員の校内巡回を密に行っているが、盗難・器物破損も数件発生。
- ・交通事故件数は減少している。自転車運転時の単独事故が多い。

◆ 全体を通して委員からの意見

- ・不登校や心の病といった問題を抱えた生徒がおり、先生方がご尽力されていることを毎回の協議会で聞かせていただいている。これからますます個々の環境に応じた対応をしていかないといけなくなると思うので、統合後の学校でも引き継いで生徒のための取組みを進めていってほしい。
- ・大阪府の PTA 協議会の本部で、不登校の生徒が多いことや、家庭の経済的な問題により高校をどのように選ぶかに悩む保護者が多いということを知る。選択肢として、地方の学校への進学を考える保護者もいる。生徒がどれだけ楽しく学校に行けるか、先生と子どもたちがどれだけ打ち解けられるかということを考えていってほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類になることによって、これまで出席停止になっていたケースが欠席になるなどの問題が出てくる。学校現場としては、学校に来てほしいという思いを前面に出してやってほしい。あと3年ではあるが、将来に役立つような教育をしっかりと行ってほしい。
- ・中学校においても、学校の取組みに対する生徒の評価は高いが保護者はそれほどでもないということがよくある。本校の協議会で、生徒は学校活動に取り組む中で達成感を感じてそれを肯定的にとらえているが、保護者にはそのことがダイレクトには伝わらない、先生方は自信を持ってやっていただきたい、というご意見をいただいた。美原高校でも非常に多くの取組みをしていただいている。今後どうぞよろしくをお願いします。

(5) 閉会挨拶（校長）

- ・3年後に閉校するという事で、来年度以降、教員が減って、教科指導だけでなく生活指導や進路指導などにおいても変更しないといけない部分がたくさん出てくる。生徒の方も、クラス数が減っていくため、学校行事を従来通りできないということが出てくる。来年度の行事については現在検討をしているが、生徒が寂しい思いをしないよう、3年間充実した学校生活を送れるよう、どのように変えていけばいいか、前例にとらわれずに新しいことに取り組んでいくことが必要になる。教員が、あと3年ということではなく、この3年をどういうふうに作り上げていくかという意識をもってやっていくことが大事であると思っている。次年度以降もご協力をよろしくお願いいたします。1年間ありがとうございました。